

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/04/04

ユーロ>ドル>円の構図継続か

通貨ペア		ページ数
基調		
ユーロ/円	➔	円売りムード継続へ 予想レンジ: 117.80 ~ 123.00円 2 - 3
ユーロ/ドル	➔	ユーロ圏追加利上げ観測がカギ 予想レンジ: 1.4100 ~ 1.4380 ドル 4 - 5
ポンド/円	➔	引き続きドル/円・ユーロ/円に注目 予想レンジ: 132.00 ~ 138.00 円 6 - 7
ポンド/ドル	➔	英経済指標と米要人発言がポイントに 予想レンジ: 1.5930 ~ 1.6270 ドル 8 - 9
経済指標 カレンダー		一週間の予定を一覧で表示 10

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 3/28~4/1までの主な推移



3/28 Monday	27日に行われた独・州議会選挙で、メルケル首相率いる政権与党が敗北を喫した事を受けて、ユーロ売り優勢で取引が始まり、ユーロ/円は114.20円の安値を付けた。しかしその後欧州中銀(ECB)のトリシェ総裁がユーロ圏のインフレ率は物価安定目標を継続的に上回っているとの見解を示した事で、ECBによる利上げが秒読み段階に入っているとの見方が強まりユーロは反発。ユーロ/円は115.30円まで上昇した。(①)
3/30 Wednesday	欧州株の上昇に加え、ポルトガル政府高官が「外部支援に頼らずとも今年の国債償還には対応できる」と発言した事や、ブラジルのルセフ大統領がポルトガル国債の購入を検討していると発言した事を受けてユーロ高が進み、ユーロ/円は117.27円まで上昇した。(②)
3/31 Thursday	独3月雇用統計で失業率が7.1%と予想(7.2%)以上に改善し、失業者数も-5.5万人と予想(-2.4万人)以上の減少となった事に加え、ユーロ圏3月消費者物価指数・速報が前年比+2.6%と予想(+2.4%)を上回り、ECBの物価安定目標である「2%未満」を4カ月連続で上回った事を受けてユーロ/円は117.99円まで上昇した。(③)
4/1 Friday	米3月雇用統計は失業率が8.8%と予想(8.9%)以上に改善し、非農業部門雇用者数でも21.6万人増と予想(19.0万人増)を上回る増加幅を記録した。さらに米フィラデルフィア連銀のプロッサー総裁が「失業率が大きく低下する前に、緩和策を終了させる必要がある」などと述べた。改めて、米国の早期引き締め観測が意識されるとドル買いが強まりドル/円が84.70円台まで上昇した影響からユーロ/円は119.80円の高値を付けた。(④)

上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による早期利上げ観測
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
- 欧州金融機関に対する懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今週の見通し

先週のユーロ/円相場は114.20円～119.80円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約4.6%の大幅上昇(ユーロ高・円安)となった。欧州中銀(ECB)は7日に利上げに踏み切る事がほぼ確実視されている一方で、本邦では東日本大震災の影響により超低金利政策の長期化が避けられないとの見方が広がっており、金融政策の温度差から大きくユーロ高・円安が進んだ。ECBの利上げ観測はインフレ警戒型であり、足元での資源価格高が先行きのインフレ懸念を高めている事が背景だ。東日本大震災の復興需要や世界的に脱・原発というムードが高まっている折、当面は資源価格高が続く公算が高く、欧州のインフレ懸念が一度の利上げで終息に向かう事は考えにくい。つまり7日のECB理事会で利上げに踏み切っても「利上げ打ち止め観測」が台頭する可能性は低く、むしろ追加利上げ観測が高まりやすい地合いと言えそうだ。同日に行われる日銀金融政策決定会合で、もし追加緩和策が決定されれば、ユーロ高・円安が一段と進む可能性もある。(神田)

(予想レンジ: 117.80～123.00円)

テクニカル分析



●ユーロ/円 4/01週足引値: 119.58円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)ユーロ/円は、88.93円(2000/10安値)から169.95円(2008/07高値)へと81.02円上昇したあと、大きく下落している。動きとしては105.42円(8/24)⇒115.68円(10/07)⇒106.81円(1/10)⇒115.97円(3/04)⇒106.40円(3/17)⇒115.53円(3/22)となっている。先週のユーロ/円は5日連続の急騰を見せた。取引値は20日線(114.77円、4/01)や60日線(113.06円、4/01)、200日線(111.84円、4/01)、を上回っている。ボリンジャーバンドは4/01現在、上限: 118.84円～下限: 110.71円で、バンド幅が急拡大している。バンド幅の上限を押し上げる上昇となっている。歴史的に見て、115～120円のゾーンは取引された日数が少なく、上昇時も下落時も通過点となりがちである。大台の120円台に近づいてきたが、ここは非常に重要な箇所である(2000年10月: 88.93円と2008年7月169.95円の38.2%戻し水準)。ここをクリアーに超えるかどうかで今後を判断したいところ。上値ポイントは、119.87～120円であり、下値ポイントは①115.68円(2010/10月高値)、②114.77円(20日線、4/01段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 3/28~4/1までの主な推移



<p>3/28 Monday</p>	<p>27日に行われた独・州議会選挙で、メルケル首相率いる政権与党が敗北を喫した事を受けて、ユーロ売り優勢で取引が始まり、ユーロ/ドルは1.4020ドルの安値を付けた。しかしその後欧州中銀 (ECB) のトリシェ総裁がユーロ圏のインフレ率は物価安定目標を継続的に上回っているとの見解を示した事で、利上げが秒読み段階に入っているとの見方が強まり、ユーロ/ドルは1.4114ドルまで上昇した。(①)</p>
<p>3/29 Tuesday</p>	<p>米セントルイス連銀のブラード総裁が「米連邦準備制度理事会 (FRB) は世界の不確実性が解消される事を待たずに金融政策の正常化を開始する可能性がある」などと発言すると、米国の出口戦略がこれまでの予想よりも早期に開始されるとの思惑が高まりドル高が進み、ユーロ/ドルは下落した。さらにその後格付け会社S&Pが、ポルトガルとギリシャも格下げを発表すると、ユーロ/ドルは1.4046ドルまで下落した。(②)</p>
<p>3/31 Thursday</p>	<p>独3月雇用統計で失業率が7.1%と予想(7.2%)以上に改善し、失業者数も-5.5万人と予想(-2.4万人)以上の減少となった事に加え、ユーロ圏3月消費者物価指数・速報が前年比+2.6%と予想(+2.4%)を上回り、ECBの物価安定目標である「2%未満」を4カ月連続で上回った事を受けてユーロ/ドルは1.4233ドルまで上昇した。(③)</p>
<p>4/1 Friday</p>	<p>米3月雇用統計は失業率が8.8%、非農業部門雇用者数でも21.6万人増と予想(19.0万人増)を上回る増加幅を記録。さらに米フィラデルフィア連銀のプロッサー総裁が「失業率が大きく低下する前に、緩和策を終了させる必要がある」などと述べた。これを受けてユーロ/ドルは1.4061ドルまで下落したが、その後、NY連銀のダドリー総裁が「成長に関して行き過ぎた楽観は禁物」・「失業率はなお非常に高い水準にある」などと発言すると、米国の早期金融引き締め観測は行き過ぎとの見方が広がり、ユーロ/ドルは1.4244ドルの高値まで急反発した。(④)</p>

上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による早期利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米国の超低金利長期化観測

下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・ドル金利の先高観

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4020～1.4244ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.3%の上昇（ユーロ高・ドル安）となった。米地区連銀の総裁から「出口戦略」に対する前向きな発言が相次いだ一方で、欧州中銀（ECB）は7日の理事会で利上げに踏み切る事がほぼ確実との見方が広がる中、ユーロ/ドルは方向感が出にくい状況となったが、1日には米NY連銀のダドリー総裁が「米国景気は依然として脆弱だ」として量的緩和を継続する姿勢を改めて示した。米連邦準備制度理事会（FRB）のバーナンキ議長に近く、米連邦公開市場委員会の常任メンバーでもあるダドリー総裁の発言を受けて、量的緩和第2弾・QE2は予定通り6月まで遂行されるとの見方が強まっている。5日のバーナンキ米FRB議長の講演やFOMC議事録（3/14-15開催分）でも、急速に米国の早期引き締め観測が強まる内容となる事は考えにくく、7日のECB理事会後のトリシェ総裁の会見で、利上げに打ち止め感が出ない限り、ユーロ高・ドル安基調は変わらないだろう。（神田）

（予想レンジ:1.4100～1.4380ドル）

テクニカル分析

〔移動平均線〕

— 20日線

— 60日線

— 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

— +2シグマ

— -2シグマ



●ユーロ/ドル 4/01週足引値:1.4225(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
ユーロ/ドルは超長期で見ると、0.8234(2000/10安値)と1.6037(2008/07高値)の幅の中、半値である1.2136を割り込んで2010/6/07に1.1874の安値を見た。その後は11/04高値1.4283⇒1/10安値1.2873⇒3/22高値1.4248となっている。現状の取引値は20日線(1.4052、4/01)、60日線(1.3749、4/01)、200日線(1.3384、4/01)よりも上値に位置する。先週は3/28に安値1.4020を見て、そこをボトムとしてもみ合いながら上昇の動きを見た。結果として5日連続の陽線となっているボリンジャーバンドは4/01現在、上限:1.4307～下限:1.3798であり、バンドの上限、下限ともに緩やかに上昇が続いている。ユーロは調整的な下落を経て再度上昇に向かっていく。1.4250を超えると、1.43～1.4350が視野に入るところ。上下に大きく値幅が振れながらの一進一退の上昇と見られる。上値ポイントは①1.4248(3/22高値)、②1.4307(ボリンジャーバンド上限、4/01段階)、下値ポイントは①1.4052(20日線、4/01段階)、②1.4060(1/10の1.2873からの上昇トレンドライン、4/04時点)、③1.3798(ボリンジャーバンド下限、4/01段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 3/28~4/1の主な推移



3/29 Tuesday	ブロード・セントルイス連銀総裁が「米連邦準備制度理事会 (FRB) は世界の不確実性が解消されるのを待たずに金融政策の正常化を開始する可能性がある」などと発言すると、ドル/円が大きく上昇。これに連れてポンド/円も上値を追う展開となった(①)。
3/30 Wednesday	欧州株高に加え、ポルトガル政府高官が「外部支援に頼らずとも今年の国債償還には対応可能」と発言したこと等を背景にユーロ/円が上昇すると、ポンド/円も連れ高となり、133円台後半まで上昇した(②)。
3/31 Thursday	一日を通して132円台半ばから133円台半ばでのみみ合いに終始したが、NY市場終盤に米ミネアポリス連銀のコチャラコタ総裁が「2011年後半にかけて0.75%の利上げが必要になる可能性がある」との見解を示した事が伝わり、ドル/円で大きく円安が進むと、ポンド/円でも円売り優勢となった(③)。
4/1 Friday	前日の流れを引き継いでドル/円が上昇すると、ポンド/円も連れて上値を伸ばし、134円台乗せを達成。17時30分発表の英3月製造業PMIが57.1と予想(60.9)を下回るとポンドが売り優勢となる場面も見られたが、米3月雇用統計の結果が予想を大きく上回る良好さを見せたことなどを背景にドル/円が急騰すると、ポンド/円も連れて上昇。また、ダドリー・ニューヨーク連銀総裁が「FRBの2つの使命達成には依然遠い」「成長について過度に楽観的になり過ぎてはならない」と発言したことを受けてポンド/ドルで急激にドル安が進むと、ポンド/円はさらに上値を伸ばし、135.79円の高値を付けた(④)。

上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

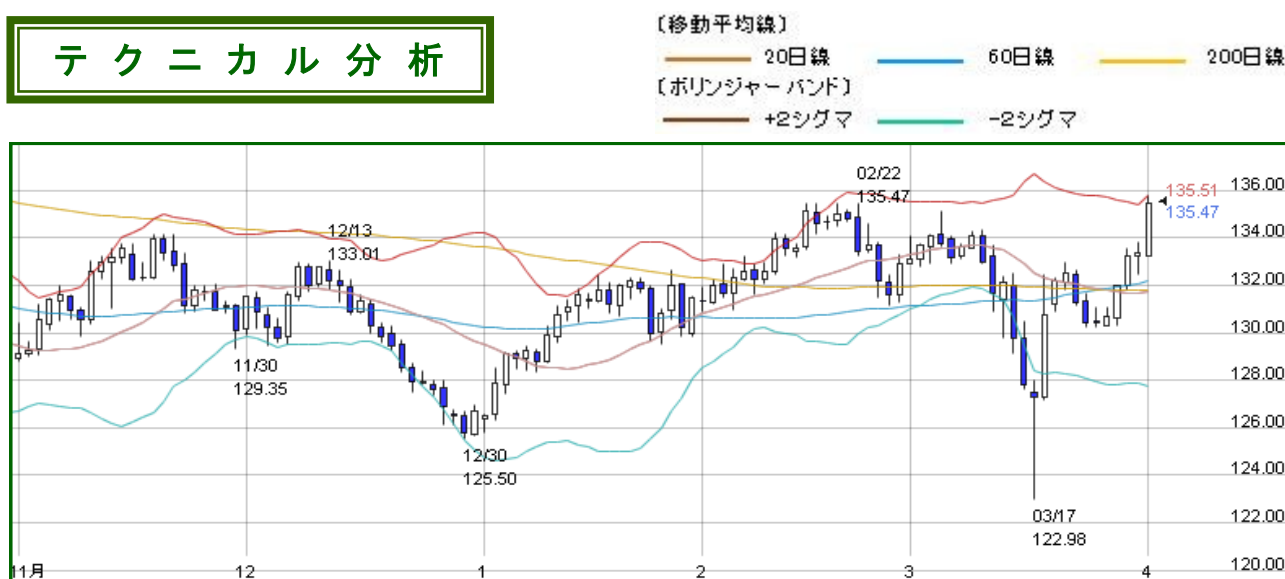
GBP/JPY

今週の見通し

先週のポンド/円相場は手掛かり材料に乏しく、ドル/円相場やユーロ/円など、その他の通貨ペアに連れる場面が多かった。一方、今週の英国では3月建設業PMI(4日)、3月サービス業PMI(5日)、2月鉱工業生産(6日)、イングランド銀行(BOE)の金融政策発表(7日)、3月生産者物価指数(8日)と、毎日のように経済イベントが予定されている。経済指標に関しては毎月の通りポンド相場の手掛かり材料となる公算で、ポンド相場独自の動きも出てきそう。もっとも、依然として為替相場の関心の大部分を米国の金融引き締め時期やユーロ圏の「利上げ後」の政策を睨んでいることを考慮すると、やはりドル/円やユーロ/円の影響は引き続き強いと見ている。なお、BOEの金融政策については据え置き予想が大勢を占めており、予想外の利上げなどがない限り相場の反応はかなり限定されそう。 (ジェルベズ)

(予想レンジ: 132.00~138.00円)

テクニカル分析



●ポンド/円 4/01週足引値: 135.47円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ポンド/円は、118.76円(2009/01/19安値)から163.04円(2009/08/07高値)まで44.28円上昇した。今後は上記上昇幅のどこまでを下落によって戻すかが焦点だが、すでに122.98円(3/17安値)をつけており、長期的な流れでは依然として下落相場となっている。

3/17に122.98円の安値を見て後、4/01には135.79円の高値を見た。先週のポンド/円は5日連続の上昇となり、60日線(132.18円、4/01)、200日線(131.78円、4/01)、20日線(131.75円、4/01)をすべて上回っている。ボリンジャーバンドは4/01現在、上限: 135.77円~下限: 127.72円であり、バンド上限はやや上昇、下限は下落の動きを見せており、バンド幅は拡大している。上値追いの強さには驚かされるが、136円を超えていかないとダレて下落しやすいところではないかと見られる。上値ポイントは①137.75円(8/03高値)、②140.58円(5/10高値)であり、下値ポイントは①132.18円(60日線)、②130.20円(3/25安値)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 3/28~4/1の主な推移



3/28 Monday	豪州の大洪水やNZの大地震に絡む英保険会社の保険金支払いのため、ポンド売りが出ているとの噂を背景にポンドは大きく下落し、ポンド/ドル1.5935ドルの安値を付けた(①)。しかし、NY市場序盤に欧州中銀(ECB)のトリシェ総裁が「インフレ率は物価安定目標を継続的に上回っている」との見解を示したことでユーロ圏の早期利上げ観測が強く意識され、ユーロ/ドルが大きく上昇すると、ポンド/ドルはこの日の高値となる1.6037ドルまで上昇した。
3/30 Wednesday	欧州株高に加え、ポルトガル政府高官が「外部支援に頼らずとも今年の国債償還には対応可能」と発言したこと等を背景にユーロ/ドルが上昇すると、ポンド/ドルも連れて1.6080ドルまで上昇した(②)。その後、一旦上げ幅を縮小する場面も見られたが、ユーロ圏での金利先高感を背景にユーロ/ドルが一段高になると、ポンド/ドルは再び1.60ドル台後半まで値を戻した。
3/31 Thursday	独3月雇用統計が予想以上に改善し、ユーロ圏3月消費者物価指数・速報が予想を上回ったことでユーロ/ドルが大きく上昇するに連れ、ポンド/ドルは1.6149ドルの高値をつけた(③)。しかし、欧州債務不安を背景にユーロ/ドルが反落すると、ポンド/ドルも連れ安。さらに、NY市場終盤に米ミネアポリス連銀のコチャラコタ総裁が「2011年後半にかけて0.75%の利上げが必要になる可能性がある」との見解を示した事が伝わったこともドル買い要因となった。
4/1 Friday	17時30分発表の英3月製造業PMIが57.1と予想(60.9)を下回った他、21時30分に米3月雇用統計において非農業部門雇用者数が21.6万人(予想:19.0万人)、失業率は8.8%(同:8.9%)と予想より良好な結果となったことなどを受けポンド/ドルはドル買い優勢となる場面も見られたが、ダドリー・ニューヨーク連銀総裁が「FRBの2つの使命達成には依然遠い」「成長について過度に楽観的になり過ぎてはならない」と発言したことを受けてドル売りが強まると、ポンド/ドルは1.61ドル台まで上昇した(④)。

上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今週の見通し

今週の英国では3月建設業PMI(4日)、3月サービス業PMI(5日)、2月鉱工業生産(6日)、イングランド銀行(BOE)の金融政策発表(7日)、3月生産者物価指数(8日)と、毎日のように経済イベントが予定されている。これらイベントはポンド相場で材料視されると考えられるが、足元の為替市場の関心が引き続き米国の金融引き締め時期についてに集まっていることを考慮すると、米国の要人発言なども同時に注視しておくべきだろう。特に5日朝に予定されている米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の講演の内容には注目が集まりそうだ。これまで慎重な発言が目立つバーナンキ議長からタカ派寄りの発言が出てくると、米早期金融引き締め観測がさらに強まり、ドル高圧力が大きく掛かるとみる。一方、同議長が慎重姿勢を崩さないようなら、一旦ドル売りが優勢になると考えられる。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.5930~1.6270ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ -2シグマ



●ポンド/ドル 4/01週足引値:1.6112(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見た相場展開)
ポンド/ドルは、1.3501(2009/01/23安値)から1.7043(2009/08/05高値)まで3542ポイント上昇した。大きなところでは依然としてその安値-高値の中で大きな三角持ち合いを形成中である。

12/28安値1.5344から3/22高値1.6399まで1055pipsの上昇を見て、その後、調整で下落している
取引値は20日線1.6130(4/01)を下回り、60日線1.6071(4/01)とちょうど交差し、200日線1.5766(4/01)よりも上値で推移している。ボリンジャーバンドは4/01現在、上限:1.6340~下限:1.5920である。3/28にはバンド下限を試す動きが見られた。先週は週初に下落が先行したが、3/28の安値1.5935から折り返し緩やかに上昇の動きが見られた。1.59~1.6250でのみみ合いの動きで方向感が出にくいと見られる。目先の上値ポイントは①1.6200、②1.6399(3/22高値)であり、下値ポイントは、①1.6071(60日線、4/01現在)、②1.5920(ボリンジャーバンド下限、4/01段階)、である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (4/4~8)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/4 (月)	8:50	○	(日)日銀短観[大企業製造業業況判断]	6	—
	8:50	○	(日)日銀短観[大企業製造業先行き]	2	—
	8:50		(日)日銀短観[大企業非製造業業況判断]	3	—
	8:50		(日)日銀短観[大企業非製造業先行き]	-1	—
	19:00		(ユーロ圏)2月生産者物価指数[前年比]	6.10%	6.70%
4/5 (火)	—		香港休場(清明節)		
4/5 (火)	10:30	○	(豪)2月貿易収支	+18.75億AUD	—
	13:30	○	(豪)RBAキャッシュターゲット	4.75%	4.75%
	18:00	○	(ユーロ圏)2月小売売上高[前月比]	0.40%	—
	18:00	○	(ユーロ圏)2月小売売上高[前年比]	0.70%	—
	23:00	◎	(米)3月ISM非製造業景況指数	59.7	60
	27:00	◎	(米)FOMC議事録(3月14・15日分)	—	—
	4/6 (水)	—		(日)日銀金融政策決定会合(～7日)	—
4/6 (水)	14:00		(日)2月景気動向指数・速報[先行CI指数]	101.5	104.2
	14:00		(日)2月景気動向指数・速報[一致CI指数]	105.9	106.4
	17:30	○	(英)2月鉱工業生産[前月比]	0.50%	0.40%
	17:30		(英)2月製造業生産高[前月比]	1.00%	0.50%
	18:00		(ユーロ圏)第4四半期GDP・確報値	0.30%	0.30%
	18:00		(ユーロ圏)第4四半期GDP・確報値	2.90%	0.50%
	19:00		(独)2月製造業受注[前月比]	2.90%	0.50%
	23:00		(加)3月Ivey購買部協会指数	69.3	—
4/7 (木)	—	○	日銀金融政策決定会合(6日～発表)	0.00-0.10%	0.00-0.10%
4/7 (木)	10:30	◎	(豪)3月新規雇用者数	-1.01万人	—
	10:30	◎	(豪)3月失業率	5.00%	—
	19:00	○	(独)2月鉱工業生産[前月比]	1.80%	0.50%
	20:00	○	(英)BOE政策金利発表	0.50%	0.50%
	20:45	◎	(ユーロ圏)欧州中銀金融政策発表	1.00%	1.25%
	21:30	◎	(米)4/2までの週の新規失業保険申請件数	38.8万件	—
	21:30		(加)2月住宅建設許可[前月比]	-5.10%	—
	28:00		(米)2月消費者信用残高	+50.14億USD	+48.00億USD
4/8 (金)	15:00		(日)2月経常収支	+4619億円	+1兆7430億円
4/8 (金)	15:00		(日)2月貿易収支	-3945億円	+7441億円
	14:00		(日)3月景気ウォッチャー調査[現状判断DI]	48.4	—
	14:00		(日)3月景気ウォッチャー調査	47.2	—
	14:00		(日)4月金融経済月報・基本的見解	—	—
	15:00		(独)2月貿易収支	101億EUR	—
	15:00		(独)2月経常収支	+72億EUR	—
	17:30	◎	(英)3月生産者物価指数[コア:前年比]	3.10%	2.90%
	20:00	◎	(加)3月失業率	7.80%	7.70%
	20:00	◎	(加)3月雇用ネット変化	+1.51万人	+3.25万人
	21:15		(加)3月住宅着工件数	18.19万件	18.00万件
	23:00		(米)2月卸売在庫[前月比]	1.10%	1.20%

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com